

3-②. 市民活動の場の支援(CANVAS谷町)事業

— 2013年4月のオープンから7年。協会らしい民設民営の拠点を運営！

2013年4月よりCANVAS谷町（大阪市中央区）を管理・運営。CANVAS谷町では、フレックスデスク5団体、コーディネーションデスク1団体が活動した。CANVAS谷町の自主財源でもある貸会議室の平均稼働率は、小会議室33.7%、大会議室18.7%、大会議室ハーフ利用8.3%、たたみスペース6.1%、情報交流エリア7.1%であった。

1. CANVAS谷町を拠点として活動する団体

CANVAS谷町を拠点として活動する団体に、フレックスデスク、コーディネーションデスク、レターボックス、ロッカー小・中・大を貸し出している。

（1）フレックスデスク

特定の事務所を持たず、週数回程度の事務所作業や活動を進める「事務所機能」を求める団体にとっての利便性もったデスクと、郵便物を受け取ることができるレターボックスを提供。団体同士が「事務所」をシェアしながら、拠点に集まる人、団体や支援者と出会い、共に資源や知恵を共有できる場を作っている。

■フレックスデスク利用団体一覧（5団体・50音順）

大阪交通遺児を励ます会（2020年度～）、特）自然環境復元協会、創作サポートセンター、日本水防災普及センター、まるっと西日本（東日本大震災県外避難者西日本連絡会）

（2）コーディネーションデスク

フレックスデスクよりも利用頻度が高く、活動・事業でコーディネーションや電話相談を行なう団体に対して、デスクを提供している。

■コーディネーションデスク利用団体一覧（1団体）

特）キャンピズ

（3）レターボックス

対外的な連絡先（郵便受）を持ちたい団体に対して、レターボックスを貸し出している。

■レターボックス利用団体一覧（26団体・50音順）

特）いくの学園、ACoA Stories／大阪グループ、ACODAローゼズ、大阪交通遺児を励ます会、特）大阪市計量協会、大阪セルフヘルプ支援センター、大阪手びきの会、大阪帆船と国際交流の会（SAIL' O'）、大阪筆記通訳グループ「ぎんなん」、特）O'hana 親と子の絆を育むお手伝い、おはなしグループ綿の花、かなしみぼすと、特）キャンピズ、くつろぎステーションつばさ、コーポラティーバまいど、特）自然環境復元協会、創作サポートセンター、地球コード研究会、なにわ語り部の会、日本水防災普及センター、BHNテレコム支援協議会関西事務所、ファミリーズアノニマス大阪、福祉カウンセリング協会、まるっと西日本（東日本大震災県外避難者西日本連絡会）、レインボーフェスタ！実行委員会、ワーキング・ウィメンズ・ネットワーク

（4）ロッカー

CANVAS谷町を活動の拠点とし、活動・事業で荷物の保管が必要な団体に対し大・中・小ささまざまなサイズのロッカーを貸し出している。

■ロッカー利用団体一覧（19団体・50音順）

ACoA Stories／大阪グループ、ACODAローゼズ、大阪交通遺児を励ます会、特）大阪スタタリングプロジェクト、大阪セルフヘルプ支援センター、大阪手びきの会、大阪筆記通訳グループ「ぎんなん」、ギャマノン天満橋グループ、特）キャンピズ、くつろぎステーションつばさ、コーポラティーバまいど、手話サークル「つくし」、創作サポートセンター、地球コード研究会、中卒・中退の子どもをもつ親のネットワーク、なにわ語り部の会、日本水防災普及センター、福祉カウンセリング協会、まるっと西日本（東日本大震災県外避難者西日本連絡会）

2. CANVAS谷町で実施された様々な動き

（1）CANVAS谷町のデザインチーム「たにまちっく」の活動

全国から集まる市民活動情報を分かりやすく来館者に伝えることや、心地の良い空間を作り、さまざまな人の居場所にする、さまざまな団体、人の橋渡しをすることを目的として活動をしているチーム。2020 年度は新型コロナウイルスの感染防止対策として、職員や利用者が共用するカフェコーナーの陶器のコップやスプーンの撤去、除菌ジェルやアルコールウェットティッシュでの消毒の徹底などの衛生提案を行った。また、ボランティア・NPO推進センター拡大運営委員会で提案され実施した「Slack 勉強会」では、講師協力を行った。

※Slack とは、組織やチーム内のコミュニケーションを円滑にするためのチャットツールのこと。



（2）事業指定寄附の募集

2018 年度に募集を開始した、自助（セルフヘルプ）グループが会議室を利用しやすくするための「自助グループ利用応援寄附」を継続して募集した。目標額 100,000 円に対し約 109,700 円（24 件）（内、2020 年度は 30,700 円、約 5 件）のご寄附をいただいた。2020 年度に応援寄附の利用団体はなかった。寄附者名は、「2020 年度の援助者および会員」に掲載している。

（3）備品の寄贈

企業からの什器備品の寄贈により、大会議室・小会議室の机・椅子等の入れ替えを行った。キャスター付きの椅子となり、移動や整理がしやすくなった。



3. CANVAS谷町の全体的利用状況

人と人がつながったり、市民活動に関する情報を入手できることはCANVAS谷町の重要な機能のひとつである。情報交流エリアでは、市民活動に関するイベント、ニュースレター、ボランティア情報などを提供した。

同時に、NPO支援の一環として印刷機や紙折り機などをワークスペースに設置しているが、印刷機・コピー機の利用は171件（前年度414件）であった（協会利用は含まず）。

（1）会議室の利用主体別件数および割合、会議室種別の稼働率

貸会議室はNPO支援メニューのひとつであるとともに、大きな自主財源でもある。2020 年度の利用件数は999件（前年度1,562件）だった。利用主体別の利用実績は、パートナー登録団体463件（同771件）、協会455件（同671件）、一般71件（同108件）、会員10件（同12件）だった（図3-5）。年間の平均稼働率は、小会議室33.7%（同49.3%）、大会議室18.7%（同31.9%）、大会議室ハーフ利用8.3%（同9.8%）、たたみスペース6.1%（同18.7%）、情報交流エリア7.1%（同12.1%）であった。

2020 年2月末からの新型コロナウイルスの影響による会議室キャンセルや利用控えにより、2020 年度の利用は激減した。対策としてオンライン会議に対応したテレワークブースを新たに設置し、5件の利用があった（図3-6）。

